がっこうだより

枚方市長尾西町２丁目 45 番１号　TEL050－7102－9176
E-mail　nishinagao-e00@city.hirakata.ed.jp
URL　https://www.city.hirakata.osaka.jp/soshiki/6-1-0-0-0_2.html
枚方市立西長尾小学校
令和６年１月３０日

＜西長尾小学校のめざす児童像＞
１．心豊かな子ども（自他を大切にする、思いやりのある子ども）
２．深く考える子ども（自ら学び、考えて行動できる子ども）
３．健康な子ども

つぎの自分の姿を描きましょう

―― つぎの学年へと少しずつ成長していくために

地球は１年ごとに太陽の周りを１周しています。四季も巡り続けます。そんな自然のリズムの中で私たちは人として成長していきます。時の流れは、人に前へ進むことを促します。 学校のしくみも、時の流れの中にあります。

真冬を迎えた１月下旬。 学校は、次の新しい一年間に向けた準備期間といえる雰囲気となってきます。

子どもたちは自分たちがこれまでどのようなことができるようになったかを振り返っています。また、これからどのような力をつけたいのかを自分で探します。

学校も次年度は、さらに教職員の資質能力の向上のための業務改善に取り組んでいきます。現在、次年度に向けて、子どもたちがのびのびと成長へ努力できる教育環境の充実や、教育課程の効果的な見直しを検討しています。見直しにあたり、学校教育自己診断等、これまで保護者の皆様からいただいたご意見や、子どもたちへのアンケートの結果等も参考にしていきます。ご協力いただきまして大変にありがとうございました。今後の工夫・変更点などが整いましたら、みなさんへお知らせいたします。

さて、近年、あふれる情報の海の中で、本質的な視点で物事を捉え、身の回りに起こっている事象を正しく理解していく力をつけることが求められています。自分の力で的確に判断し、自身で行動を決め、人生を充実させていく「生きる力」を育む教育が、ますます大切になってきています。

今年度５月に、長尾西中学校区でご講演いただいた岡山大学 教育推進機構准教授の中山芳一先生は、その講演で、日本の教育現場には、昔から「生きる力」とよばれるものを大切にしてきた伝統があると語りました。そのうえで、これまでもそうであったが、これからの社会に必要とされている力は、すでにこれまで全ての人が大切にしてきた力、「心」の力であるとしています（心の力は様々な働きとしてあらわれ、数値で測ることができないところから、「非認知能力」とよんでいます）。

その心の力を、子どもたちに「大切なものである」と意識してもらい、磨き上げる習慣をつけてもらう雰囲気づくりが教育現場には必要だと考えています。

例えば、朝のあいさつはとても大事です。挨拶は心と心をつなぐ入り口です。全員と「おはようございます」の挨拶が交わし合えるように、正門や裏門付近で積極的に声をかけます。挨拶をしていて感じることは、子どもは大人の鏡なんだな、ということです。心の底から混じり気なく、元気に「おはようございます！」と言えたときは、勢いのある元気な、「おはようございます」が、まるで山からはね戻ってくる「こだま」が増幅されて帰ってくるように感じられます。自分にあまり元気がない時に比べると全然違うのです。

雰囲気は、主体的にそう思った人の力によって変わってくるのかもしれません。教職員一同、元気に、「心豊かで　自ら学ぶ　たくましい」一人一人になることで、子どもたちもそのように成長するのだと信じ、毎日少しずつ前進していけるように努力したいと思います。

演劇的手法を生かした授業のねらい

１月１０日、兵庫県立芸術文化観光専門職大学　学長の平田オリザ先生にお越しいただき、本校の演劇的手法を生かした授業を観察後、種々ご指導を頂戴しました。

演劇を教育に生かす最大の目的は、他者意識に立つ機会を作ることと、協働することの楽しさや創造性、協働するための力の必要性を一人ひとりの児童に感じてもらうことです。

＜裏面に続く＞

小学校では、各教科における授業での新しい知識との出会いによる学びが、子どもたち自身の新鮮な体験として、自身の成長に直接つながることが多いですが、演劇活動自体には新しい知識との出会いはほぼありません。一回の演劇的手法を生かした授業で、一人の子どもが大きく変わるということは、あまりないでしょう。ではなぜ演劇を教育に活かすことが必要なのでしょうか。

演劇には現実の姿ではなく、別人になれる場が存在します。別の人格を演じることで、他者の視点になれる場がそこに現れるのです。また、創作劇活動には、同じ仲間とのすり合わせが必ず生まれます。自分の思い通りにならない場面や、逆に他の人が自分の意見を思わぬ方向へ発展させてくれる場合もあります。このような経験を重ねる中で、各教科の授業では焦点化されにくいコミュニケーションスキルの価値に焦点化した意識が育ちます。この意識を持つ経験が大切なねらいです。

また、「協働することによって生み出されるもの」の価値の高さを感じてほしいとも思っています。社会は人と人どうしの協働活動で成り立っています。複雑化し見通しがつきにくい時代だからこそ、子どものころに、他者と関わり合うことに自信をもたせたいです。

その大切さを意識することでそれ以後の行動に少しずつ変容が生まれてくると確信します。その努力の積み重ねによって最終的には協働するためのコミュニケーションスキルがついたといえる状態が生まれてくることを期待しています。

このように、演劇的手法によって得られる最大の効果は、「他者意識に立つ」価値の高さに気づくことや、物事を成そうとするときに出会う困難に対して、「折り合いをつける」ことの良さに気づくことです。

子どもたちには、それらの気づきにより、他者意識に立つことや折り合いをつけることを、必要なときに意識して行動できるようになってほしいと願っています。子どもは、日常の中でさりげなくそうした行動をしています。日常生活の中に垣間見られるそれらの行動を見取り、とても良いことだと価値づけできるような関わりを教職員は意識していきます。

☆１月のようす

日々の学校の様子は「枚方市立西長尾小学校ブログ」をごらんください。右の QR コードでアクセスできます。

1 月 22 日　5 年生

社会科「日本では、これまでどれぐらいの自然災害が発生しているのだろう」という問いに対して、資料をもとに話し合っていました。

1 月 10 日　全学年（3・4年生）400 字戯曲創作（公開授業）

３・４年生は 400 字戯曲創作に取り組みました。原稿用紙１枚に登場人物二人の台詞だけの台本をつくります。今回は手引きとなる「前ばなし」が３題用意されていて、その中から一つを選び、その後に続けて作品を作ります。担任の先生が丁寧に読み聞かせていました。できた作品が周りの人に伝わった喜びや、達成感で子どもたちはとてもいい顔をしていました。

1 月 10 日　全学年（1・2年生）演劇を生かしたコミュニケーション授業（公開授業）

１年生は何をやっているの？　あてっこゲーム　を行いました。グループで考えたジェスチャーをし、自分の考えが受容される体験を通じて自己肯定感や自己有用感の向上を体験させます。

２年生は何をしているところ？　シーンあてっこゲームでした。グループでジェスチャーをつくるときに集団の中での合意形成の過程を体験させます。また、「はじめに」「次に」「終わりに」という３段階で答えさせ、最後にお題を当てるようにします。のびのびと取り組む中にも、一定の約束ごとを守りながら楽しむという姿勢ができていました。

1 月 15 日　6 年生

中学校から配布を受けた、自分の生活を豊かにするための自己管理用ノート「フォーサイト」。スケジュールを立てる力をつけ、学習時間を確保したり、自己管理能力を高め、主体性を伸ばすのが目的です。予定を書くだけでなく、自分で工夫をして書き込む欄もあり、気づいたことなどをメモすることで、自分の成長に気づくこともあります。